

岩水寺

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

岩水寺（がんすいじ）は、静岡県浜松市浜名区にある高野山真言宗別格本山の寺院。山号は龍宮山。総本尊は嵯峨天皇病氣平癒の薬師如来。本尊の厄除子安地蔵菩薩（国の重要文化財）は安産祈願・子授け祈願で知られる。

脇本尊は弘法大師と不動明王^[1]。

厄除子安地蔵菩薩は天竜川の龍神であり、かつ母の化身であるが故、家をまもるは岩水寺と呼ばれる。

山号の龍宮山は天竜川の龍神を祀るお宮を意味するが為、明治の神仏分離令により神社、水天宮（龍神＝水天）となる所であった。

2つの本尊（薬師如来・厄除子安地蔵）

薬師如来（総本尊）

- 岩水寺は神亀2年（725年）人々の病魔退散、健康長寿を祈念した行基菩薩が薬師如来の尊像を刻み、開創。その後、弘仁6年（815年）春、先年の薬子の変にて心身痛められておられました嵯峨天皇に、病魔退散の祈願をし、天皇は健康を取り戻されたと、伝う。
- 明治の神仏分離令の際、薬師堂を中心とした岩水寺と、地蔵堂を中心とした龍宮山（水天宮）とに分離される所であった為、住職が薬師堂から地蔵堂に移り住み抵抗した。現在地蔵の方が有名であるのも、その為である。

岩水寺



所在地	静岡県浜松市浜名区根堅2238
位置	北緯34度50分43.4秒 東経137度47分36.0秒
山号	龍宮山
宗旨	真言宗
寺格	別格本山
本尊	薬師如来 地蔵菩薩
創建年	（伝）725年
開基	（伝）行基
別称	家をまもるは岩水寺
札所等	遠江四十九薬師霊場 第28番 浜名湖七福神（福祿寿）
文化財	木造地蔵菩薩立像、木造薬師如来坐像、陶製五輪塔（重要文化財）ほか

厄除子安地蔵（本尊）

- 坂上田村麻呂の天竜川龍神伝説。
- 安産祈願に特徴有。地蔵のお腹を借りて出産。安産の御神体の中にある布の色により性別が分かれるといわれる。古ければ古い程ご利益があるといわれる。但し出産前に見てはいけない。
- 厄除け祈願に特徴有。体の厄のみならず、心の病や自身の罪を消去する等。
- 初代は弘法大師作と伝う。現在は2代目・運覚作。
- 地蔵菩薩は普通男性だが、母であり、実際に子供を産んでいる女性が神仏になったという、非常に珍しい仏。裸形着装像であり、体が女性である。

公式サイト ::岩水寺:: (<http://www.gansuiji.jp/>)

法人番号 6080405003394 (<https://www.houjin-bangou.nta.go.jp/he/ncorireki-johoto.html?selHouzinNo=6080405003394>)

岩水寺伝説

- 岩水寺に伝わる伝説は数多いが、ここでは一番有名、かつ地名にもなった天竜川の龍神伝説（正式名称：袖ヶ浦干水記）を挙げる。江戸時代の写本が岩水寺と静岡県立図書館に所蔵されている^[2]。また近現代の写本も各地にあり、地域や時代によりそれぞれ微妙に異なる箇所もあるが、ここでは岩水寺の伝説を挙げる。
1. 延暦年間（約1200年前）、坂上田村麻呂が勅命により東征。天竜川が荒れていた為、渡河する事が出来ず浜松市の船岡山に陣を張る。
 2. 船岡山の鬼門方向にある岩水寺に参拝し、総本尊の薬師如来に祈る。
 3. 岩水寺東側の天竜川（別名磐田の海）、袖ヶ浦にて玉袖姫が田村麻呂のもとに現れる。
 4. 後に玉袖姫は田村麻呂の妃となり、やがて妊娠。産屋を建ててもらうが、中を絶対に見てはいけないと言う。
 5. 7日経ち嵐の夜。姫が産屋を出ないため、遂に田村麻呂将軍は産屋の中を覗いてしまう。そこにいたのは姫ではなく赤い大蛇で、驚きながらも将軍は産屋に入る。
 6. 大蛇は玉袖姫の姿に変身し、赤子と干水珠、及び子安の宝珠を将軍に託して寺の赤池（関伽池）へ。そして赤池から鍾乳洞、さらに諏訪湖に帰る。
 7. 7年後、赤子は赤蛇丸と名を変へ将軍と共に浜松へ再訪。天竜川は荒れていた。
 8. 田村麻呂将軍は姫から授かった宝珠の内の一つ、干水珠を天竜川に投げ入れる。するとみるみる水が治まり、そこが陸地となった。（現在の浜松市中央区有玉地区）

9. 21歳となった赤蛇丸、名を坂上田村麻呂俊光と変える。嵯峨天皇に奏上し、母親の化身である地蔵菩薩を弘法大師に作って頂き、岩水寺に奉納。地蔵菩薩の胎内へ宝珠の内の一つ、子安の宝珠を納める。
10. 田村将軍の守り本尊、十一面観世音菩薩を祀る社として、白山妙理大権現宮が岩水寺鬼門に建立される。（本地垂迹説により白山妙理大権現と十一面観世音菩薩は 同体とされる。）
11. 田村将軍東征時の念持仏、阿弥陀如来を祀る社として、八幡宮が岩水寺裏鬼門に建立される。（本地垂迹説により八幡大菩薩と阿弥陀如来は 同体とされる。）

関係地

- 有玉神社^[3]・・・干水珠を祀る神社（浜松市中央区）
- 椎ヶ脇神社^[4]・・・赤蛇を祀る神社（浜松市天竜区）
- 白華寺^[5]・・・俊光公が産湯を使ったとされる井戸がある。（浜松市中央区）
- 潮海寺^[6]・・・潮海寺の薬師如来を勧請し、祈願したとの説もある。（菊川市）
- 磐田市坂上町・・・田村将軍が上陸した地と伝わる。
- 奥山方広寺^[7]・・・岩水寺に宿泊した開祖の無文禅師の元へ玉袖姫が訪れ、龍神に変身し、水を満たす珠を授けた。龍神を祀る神社が奥山方広寺椎河龍王神社。お札は女性の姿である。（浜松市浜名区）
- 甲斐善光寺^[8]・・・竣工の際に岩水寺住職であった源瑜上人が、法事を司どった。上人の生国は出羽の国であって、四十歳の頃より五穀を断って木食をし、其折善光寺の大勧進々勤めていた。
- 諏訪大社・・・伝説では厄除子安地蔵の化身である赤蛇（玉袖姫・赤龍神）が、諏訪湖から通って田村将軍にお使いえした。ちなみに岩水寺は赤蛇・女性神。諏訪大社は白蛇・男性神である。甲斐善光寺、及びこの縁により、武田軍襲来の際岩水寺は武田軍の味方をした。徳川家が旧領地を奪回した後、塔頭12坊の内、学頭遍照院を始め、金剛王院等11坊が廃された。

伽藍

- 薬師堂（根本堂：総本尊薬師如来を祀る）
- 本堂（地蔵堂：本尊厄除子安地蔵菩薩を祀る）
- 白山妙理大権現宮（十一面観音堂：鬼門護り）

- 八幡宮（阿弥陀堂：裏鬼門護り）
- 奥之院（弘法大師堂：六角堂の拝殿と五角堂の本殿から成る）
- 地安坊大権現堂（護摩堂）
- 聖徳太子堂（観音堂）
- 田村神社
- 水子堂
- 四天王堂
- 金城稻荷堂
- 弁天堂
- 鐘楼堂
- 仁王門
- 鍾乳洞
- 御神木（楠：浜松市指定天然記念物）
- 御神木（イチヨウ：浜松市指定保存樹木）

文化財

重要文化財（国指定）

- 木造地藏菩薩立像 運覚作
像内に五輪塔形木柱、蓮台付月輪を納める
 - 附 像内納入品
 - 建保五年慈含造像願文・建保三年慈含願文・地藏宝号結縁名帳 1巻
 - 法華経要品等 5巻
 - 紺紙金銀字般若心経 1巻 建保五年六月十三日良印奥書

- 包紙 1枚 諸尊種子・実西願文がある
- 茶地平絹香袋 1口
- 念珠 包紙添 1連
- 刀子 柄・鞘付 1口
- 白綾地裂 1枚
- 宋銭 包紙添 10枚
- 木実 1箇
- 獣皮 1箇
- 真綿 1枚
- 浅葱糸 1束
- 漆塗箱 2合
- 横笛 1管
- 蝙蝠扇 1握
- 運覚造像記 1通
- 結縁交名 3通

像高165.3センチ、檜材の寄木造。鎌倉時代の作。鎌倉時代に一部で造像された「裸形着装像」すなわち、裸形の像に布製の衣を着せて安置する形式の像である。本像の特色は、玉眼（眼の部分に水晶を嵌め込む技法）を用いるほか、歯の部分にも水晶を用い、わずかに唇を開いて歯をのぞかせる形にしている点で、他に類をみない技法である。像は保存状態がよく、表面の彩色も当初のものが残る^[9]。像内から造像記を含む納入品が発見され、慶派の仏師・運覚が建保5年（1217年）に京都の六波羅蜜寺で制作したことが明らかになった^[10]。像は2011年に国の重要文化財に指定^[11]、附（ついたり）指定の像内納入品は2015年に追加指定された^[12]。2019年に像内納入品の名称を一部変更^[13]。

関連文化財

- 陶製五輪塔^[14]（国の重要文化財） - 岩水寺境内地、根堅勝栗山経塚出土と伝え、久安2年（1146年）の銘がある。愛知県陶磁美術館蔵。
- 浜北人骨 -旧石器時代の人骨。岩水寺境内地、根堅遺跡より出土。東京大学総合研究博物館に保管されている。

- 岩水寺駅^[15]（国の登録有形文化財）-天竜浜名湖鉄道の駅。

交通

- 遠州鉄道遠州岩水寺駅より徒歩15分
- 天竜浜名湖鉄道岩水寺駅より徒歩10分

脚注

1. ^ “岩水寺 安産祈願・お宮参り・子宝・家内安全・開運厄除子安地藏尊 (http://www.gansuiji.jp/tsuite_a.html)”. *www.gansuiji.jp*. 2019年9月29日閲覧。
2. ^ “岩水寺 安産祈願・お宮参り・子宝・家内安全・開運厄除子安地藏尊 (<http://www.gansuiji.jp/tsuite.html>)”. *www.gansuiji.jp*. 2019年9月29日閲覧。
3. ^ “有玉神社のホームページ (<https://ayucalifornia.wixsite.com/aritama>)”. *aritama*. 2019年9月29日閲覧。
4. ^ “浜松たんぼう (<http://www.mai-ca.net/enjoy/>)”. *浜松たんぼう*. 2019年9月29日閲覧。
5. ^ “白華寺 - 浜松の神社仏閣特集 - Do！はままつ (<http://dohama.jp/powerspot/spot/hakkaji.html>)”. *dohama.jp*. 2019年9月29日閲覧。
6. ^ “菊川市／潮海寺 (<https://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/shoukougankou/choukaiji.html>)”. *www.city.kikugawa.shizuoka.jp*. 2019年9月29日閲覧。
7. ^ “みどころ（方広寺散策～哲学の道） | 臨済宗方広寺派大本山 方広寺（ほうこうじ） (http://www.houkouji.or.jp/report_tetsugaku.html)”. *www.houkouji.or.jp*. 2019年9月29日閲覧。
8. ^ “甲斐善光寺〔御堂建立〕 - 北杜市歴史文学館：楽天ブログ (<https://plaza.rakuten.co.jp/miharasi/diary/201903140040/>)”. *楽天ブログ*. 2019年10月2日閲覧。
9. ^ 文化庁文化財部「新指定の文化財」『月刊文化財』573、第一法規、2011、p.10
10. ^ 静岡新聞 2015年3月14日 (<http://www.at-s.com/news/detail/1174176657.html>)
11. ^ 平成23年6月27日文部科学省告示第101号
12. ^ 平成27年9月4日文部科学省告示第143号

13. [^]（変更前）「法華經要品等6巻」⇒（変更後）「法華經要品等5巻、紺紙金銀字般若心經 1巻 建保五年六月十三日良印奥書」（令和元年7月23日 文部科学省告示第31号）
14. [^]“陶製五輪塔（とうせいごりんとう）(<https://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/bunkazainavi/yukei/kougei/kunisitei/0489.html>)”。www.pref.aichi.jp. 2019年9月29日閲覧。
15. [^]“岩水寺 (<https://www.tenhama.co.jp/about/station/gansuiji/>)”。天浜線（天竜浜名湖鉄道株式会社） - 日本の原風景に出逢う旅。 . 2019年9月29日閲覧。

外部リンク

- [岩水寺 \(http://www.gansuiji.jp/\)](http://www.gansuiji.jp/)
-

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=岩水寺&oldid=104999246>」から取得